

第 15 回国立精神・神経医療研究センター神経内科短期臨床研修セミナー申込用紙

後述の説明文をよく読んで記載してください。

フリガナ 氏 名	
生年月日 (年齢)	西暦 年 月 日 (歳)
住 所	
勤 務 先	
勤務先住所	
勤務先電話番号	
連絡先メールアドレス	
卒業大学/大学卒業年	/ 年 3 月卒
研究所見学 (1 日目) ※ご希望に添えない場合があることをご了承ください。	①神経変性疾患 ②遺伝子疾患と筋疾患 ③免疫疾患 ④神経画像 希望の研究所の番号を入れてください。 第 1 希望 _____ 第 2 希望 _____ 第 3 希望 _____ 第 4 希望 _____
懇親会	<input type="checkbox"/> 参加できない方はチェックを入れてください。
電気生理検査実習 ※簡単な説明を後述していただきますので、ご覧になってから選択してください。ご希望に添えない場合があることをご了承ください。	①上級者 ②中級者 ③初学者 第 1 希望 _____ 第 2 希望 _____ 第 3 希望 _____
電気生理検査習熟度 ※グループ振り分けの参考にします	習熟度 _____ (A-E で記載してください) A. 一人で筋電図を実施できる B. 反復刺激検査や blink reflex が自分でできる C. 初歩的な神経伝導検査なら自分でできる (伝導速度、CMAP、SNAP を理解している) D. 神経伝導検査の見学はしたことはあり、原理も理解しているが自分一人ではできない E. 電気生理検査に関する知識・経験が全くない、あるいはほとんどない初心者である

<p>選択実習（2日目）</p> <p>※簡単な説明を後述していますので、ご覧になってから選択してください。ご希望に添えない場合があることをご了承ください。</p>	<p>①初学者のための嚥下機能検査 ②ボツリヌス毒素治療のコツ ③神経筋疾患における人工呼吸器療法 ④パーキンソン病の姿勢障害の評価と治療 ⑤臨床研究のいろは ⑥Device aided therapy; DBS と LCIG</p> <p>希望する実習の番号を入れてください。</p> <p>第1希望_____ 第2希望_____ 第3希望_____</p> <p>第4希望_____ 第5希望_____</p>
<p>このセミナーをどこで知りましたか</p>	<p><input type="checkbox"/>インターネット <input type="checkbox"/>日本神経学会総会ポスター, チラシ <input type="checkbox"/>知人の紹介 <input type="checkbox"/>先輩・上司の勧め <input type="checkbox"/>職場のポスター <input type="checkbox"/>その他（ _____ ）</p>
<p>来年度以降の勤務先</p>	<p><input type="checkbox"/>決まっている <input type="checkbox"/>未定 <input type="checkbox"/>来年度以降, 国立精神・神経医療研究センターでの研修も考えている</p>
<p>センター内宿泊施設（有料）</p> <p>※数が少なく、全員の部屋はありません。希望者多数の場合、NCNPから先生方の勤務施設までの距離の順に利用していただきます。</p>	<p><input type="checkbox"/>個室なら希望 <input type="checkbox"/>相部屋でもよい <input type="checkbox"/>利用を希望しない</p>

日程

7/16 (火)

- 8:45- 9:00 オリエンテーション (向井洋平)
- 9:00-10:00 座学①神経内科概論と神経遺伝学 (高橋祐二先生) 60分
- 10:10-10:55 座学②プリオン病を含む認知症 (塚本忠先生) 45分
- 11:05-11:50 座学③不随意運動の診断と治療 (坂本崇先生) 45分
- 11:50-12:30 昼食 40分
- 12:40-13:30 当センター研究所見学 50分
- ① 神経変性疾患
 - ② 遺伝子疾患と筋疾患
 - ③ 免疫疾患
 - ④ 神経画像
- 13:45-14:30 座学④パーキンソン病と関連疾患 (西川典子先生) 45分
- 14:40-15:25 座学⑤MS と NMO (山村隆先生) 45分
- 15:40-16:50 病棟回診見学
- 16:50-17:05 移動と休憩 15分
- 17:20-18:20 クリニカルカンファレンス 60分
- 19:00- 懇親会

7/17 (水)

- 8:30- 9:15 電気生理講義 (岡本智子先生) 45分
- 9:25-10:15 電気生理実習 (上級者, 中堅者, 初心者に分かれます) 50分
- 10:30-11:15 座学⑥小脳失調症 (水澤英洋先生) 45分
- 11:25-12:10 座学⑦筋疾患 (大矢寧先生) 45分
- 12:10-12:50 昼食、レジデントの1週間&当院での研修の紹介 (小田真司先生)
- 12:50-13:35 座学⑧てんかんと脳波 (金澤恭子先生) 45分
- 13:50-14:35 選択実習
- ① 初学者のための嚥下機能検査 (山本敏之先生)
 - ② ボツリヌス毒素治療のコツ (坂本崇先生)
 - ③ 神経筋疾患における人工呼吸器療法 (森先まどか先生)
 - ④ パーキンソン病の姿勢障害の評価と治療 (古澤嘉彦先生)
 - ⑤ 臨床研究のいろは (中村治雅先生)
 - ⑥ Device aided therapy; DBS と LCIG (齊藤勇二先生)
- 14:50-15:35 座学⑨神経画像 (佐藤典子先生) 45分
- 15:45-16:30 座学⑩神経病理 (齊藤祐子先生) 45分
- 16:30-16:45 アンケート
- 16:45-17:00 終了証書授与

応募について

- 本セミナーは「脳神経内科学をもっと深く学びたい・臨床と研究の最前線に触れたい」と思っている若手医師の皆さんを対象としています。
- 申し込み方法は、申込用紙に記入し、ワード形式にてメールに添付し、ymukai@ncnp.go.jp まで送ってください（CC で森裕子部長秘書 moriyuko@ncnp.go.jp にも送っていただけますと助かります）。3 日以内に返事をいたします。もし返事が届かない場合は、当施設のインターネットセキュリティの干渉で当方へメールが届かない、迷惑メール認定されているなどの可能性があります。電話にてご確認ください（平日日中の代表連絡番号 042-341-2711）。
- 募集人数は 30-35 名程度、締め切りは 6 月 21 日（金）ですが定員上限の 35 名に達した時点で募集終了となります。短時間に定員を大幅に超える応募があった場合は、6 月 22 日以前に申込受付を終了し、抽選を行います。
- 例年、応募受付開始から 2-3 週間程度で定員に達するため参加希望の方は早めの手続きをお勧めします。
- 当セミナーを通じて、各地の先生方との交流を深めていただきたいと考えており、**原則として 1 施設 3 名まで**のご応募をお願いします。4 名以上ご希望の場合はこちらから連絡いたしますので、先生方で話し合って参加者 2 名を決めていただくこととなります。
- 受講料は 10,000 円、当日現地で現金でのお支払いをお願いします。
- キャンセルの場合は他のキャンセル待ちの希望者に参加していただきたいと思っておりますので、早めの連絡をお願いします。
- 申込用紙は最初の 2 枚だけでかまいません。
- 研究所見学、選択実習は基本的に先着順となります。電気生理実習は経験と希望を考慮して調整します。いずれも希望通りにならない可能性があることはご理解をお願いします。

懇親会について

全員参加を想定しています。参加できない方は申込用紙のチェック欄にチェックを入れるのを忘れないでください。

座学「てんかんと脳波」について

実際の脳波を提示しながら、脳波判読について学びます。事例の解釈・診断が中心となるので、脳波に関する知識が全くないと理解できないと思われます。自信のない方は、簡単な医学書で事前予習をお願いします。お勧めは「飛松 省三. 脳波判読ナビ. 南山堂, 東京, 2016」

選択実習について

- ① 初学者のための嚥下機能検査：嚥下機能評価の方法について概説します。嚥下造影検査の実施方法とその評価方法について学びます。
- ② ボツリヌス毒素治療のコツ：患者へのボトックス注射を見学しながら、どのような症状に対し、どこへどれだけ投与すればよいか、具体的な使用方法について学びます。
- ③ 神経筋疾患における人工呼吸器療法：救急現場の人工呼吸器管理は異なる、神経筋疾患患者で長期にわたる人工呼吸器管理について説明します。実際に人工呼吸器のデモ機を用いて、参加者

に装着してもらいながら人工呼吸器設定について学びます。

- ④ パーキンソン病の姿勢障害の評価と治療：パーキンソン病に伴う腰曲がり (camptocormia, Pisa syndrome) は臨床現場でしばしば遭遇しますが、治療に難渋します。腰曲がりの分類から評価、治療法（リドカインを用いた muscle afferent block）まで学びます。
- ⑤ 臨床研究のイロハ：臨床研究に興味があるけれども、どのように手を付けたらよいかわからない先生が参加するとよいでしょう。臨床研究のテーマの設定から研究計画作成までについて学びます。
- ⑥ Device aided therapy; DBS と LCIG：深部脳刺激療法（DBS）やレボドパ／カルビドパ水和物配合経腸用液（LCIG, 商品名デュオドーパ®）の適応の有無の判断、調整の方法について学びます。

電気生理実習について

上級者：実際の患者に検査を行いつつ、針筋電図検査結果の手技や解釈について学びます。

中級者：一般的な神経伝導検査については知識・経験がある先生方が対象です。反復刺激試験や blink reflex などについて学びます。

初学者：初歩的な神経伝導検査の手技、波形を綺麗に出すためのコツ、トラブルシューティングなどについて学びます。

申し込み・問い合わせ・キャンセルの連絡等

国立精神・神経医療研究センター病院神経内科 向井洋平 ymukai@ncnp.go.jp まで
CC で森裕子部長秘書 moriyuko@ncnp.go.jp にもメールを送ってください。